



まずは原因を特定

積極的に不妊治療に取り組んでいる橋本市の奥村レディースクリニックの向林学副院長(45)に、治療の最前線について聞いた。

(磯江祐介)

不妊症とは、「妊娠を希望している夫婦が通常の性生活を行っているにもかかわらず、2年を経過しても妊娠しない状態」と定義されています。現代では、10組に一組の割合で不妊に悩んでいるとされます。

なぜ妊娠しないのか調べて、原因にあった適切な治療を受けることが大切です。ストレスや過労、極端なダイエットなど女性には様々な要因で生理不順に陥ることもあります。不妊の原因は、無精子症など男性にある場合もあります。

不妊治療では、カウンセリングがとても大切。当院は初診の場合、女性看護師がまず、男性医師が聞き取りにくいような内

容をじっくりと耳を傾けていきます。

奥村レディースクリニック

向林学副院長に聞く

治療には、様々なステップがあります。まずは検査で原因を特定し、排卵障害の場合は排卵誘発剤を用いた治療を行い、男性の不妊には漢方薬を処方したり卵管鏡下卵管形成術や、腹腔鏡を使って卵管の周りの癒着をとる手術療法もあります。

治療や薬について、出来るだけ分かりやすい説明を心がけています。

ですが、患者さんの不安は絶えません。そうした不安を解消しようと、当院ではメールによる相談を受け付けたり、不妊に悩む夫婦などを対象にしたセミナーを不定期で開催し、医師が不妊治療の現状を伝えていきます。

タイミング指導や人工授精などの治療で8割程度の方が妊娠できると考えています。いきなり「体外受精をお願いします」と求められる方もおられますが、回りくどいようでも、まずは原因を特定することから始めます。それが、着実な治療だと考えています。



不妊治療について語る向林副院長（橋本市の奥村レディースクリニックで）

